

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの暮らしを継続していけるように、ご家族や地域の方の協力を得ながら主体はご利用者様・礼節と尊厳の心で介護している。	地域での行事に参加している。 ( 祇園祭り・1日ディサ - ビス・ゴミ運動など。 )
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の全体会や、幹部会議を行っている中で、日々の介護の中で、理念に沿っているか常に話し合いをしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を実施し、地域の民生委員さんや、ご近所、ご家族、行政の方に参加して頂き、天鼓の理念に基づいた介護と活動の報告をしている。	毎日「一緒に暮らす」という天鼓便りをご家族様・地域の方に配布している。運営推進会議の中では、グループホームのあり方や、かかえている課題を共有して頂いて入居者様主体の介護を真剣に考えている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	お隣の方が、庭仕事をしながら、入居者様と会話をしたり、見守りもして下さっている。お向かいの方が美容師さんの為、定期的にヘア - カットに来て下さり、話し相手もして下さっている。	お向かいさんが、ペットを連れて遊びに来て下さる。近所のアパートの方が幼児をつれて遊びに来て下さる。近所の子供達が天鼓を通り抜けて通学路にしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園、小学校、中学校の生徒や、生涯大学の皆様の受け入れをしている。祇園祭り、1日ディサ - ビス、ゴミ運動に参加している。	自治会の方にも行事があったら、声をかけてもらえるよう、伝えてある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	天鼓・デイで行っている映画上映会や民謡のおけいこに、地域の高齢者の方にも参加して頂けるよう、民生委員さんに伝達を依頼した。		台風時に独居老人に電話し、天鼓に泊まりたいとおっしゃる方には、泊まって頂いた。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	より良いグル - プホ - ム活動ができるように、自己評価、外部評価を活かしている。幹部会では毎月自分の課題を作り、自己評価をし、他者からの評価をもらい、GH活動に生かしている。		スタッフ全員が、ミ - ティングで、定期的に取り組んでいる。新人研修に外部評価項目の読み合わせをし、その意味の理解を図り、行動指針として共有している。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、個々の介護状況の報告、事故報告をする事により、いろいろな意見やアドバイスをもらってサービス向上に活かしている。シフトを発表。看取りへの取り組みを共有化しつつある。		看取り体制作り。その前に今投げかけている「人間の死」とは、を十分話し合いをしたい。少しずつ、現状を話している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市は必ず推進会議に出席してくれるのでこちらの意図する所など、十分な話し合いが出来ている。空室情報も定期的に入れ、市の協力も頂いている。		看取りの問題、市立病院との訪問看護の問題を取り組みたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県主催の身体的拘束廃止研修は二名が参加、専門課程まで修了、次回一名参加予定。すでに当社の介入で、成年後見した人もいる。職員には、4~5回研修会を開催している。		県の講師である田中とも江氏を講師依頼してある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	進んで研修に参加し、学んだ内容についてスタッフ全員に参加者から発表、講習し、浸透するようにしている。		言葉の暴力はないか？まで含み話している。入居者様にとって、住みやすい環境であるかどうか、常に話し合いをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、天鼓の様子が良く分かるように、いつでも、何度でも見学に来て頂き、不安なく入居して頂けるように説明している。解約時も十分な話し合いをしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットごとに、苦情相談窓口を設けている。市町村にも、苦情相談窓口がある事を伝えてある。運営推進会議でも、意見の交換をしている。</p>	<p>利用者様とは、色々話しはしているし、希望する事柄は伺っているが、意見や、不満、苦情等があるかと、正式に話してないので、やってみたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日の天鼓便りや、個々の暮らしぶりを手紙で、毎日お知らせしている。受診内容の報告やお小遣い帳も作成し送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議への家族の参加も増えて、さかんな意見交換がされるようになってきた。過月は、シフトを発表したら、夜勤者は2名にならないかとの意見が出た。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全体会や天鼓会議の時に職員が気軽に意見を交換できる様になっている。日々の支援の中でも、意見や提案を大切に業務を行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>臨時の受診や、体調不良者のいる時、新規入居者様がいる時には、安定するまで、スタッフを増やして様子を見ている。</p>	<p>特に新規入居者へは、11時頃までつききりで、10日～2週間位対応している。たしかに夜間帯、もう一人の夜勤者体制は考えて行きたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員と話し合う時間を設けて、離職を最小限に抑えるようにしている。新規のスタッフ採用時には、シフトの中で、馴染みのスタッフを組み合わせている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の学びたい研修への参加に対して、積極的なバックアップがある。法人内での研修でも、外部からの講師を頼むなど、取り組んでいる。</p>	<p>認知症研修会への継続</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグル-プホ-ムと相互に訪問する機会があり、勉強会や交流をしている。</p>	<p>外部からの講師を呼んでの勉強会では、グル-プホ-ム連絡会第4ブロックの会員への呼びかけし、10~30人ぐらいの参加がある。回想法インストラクタ-要請講座も公開講座をしている。身体拘束の田中とも江先生の事もすでに下話している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>お花見や納涼会、忘年会などで職員間の交流の場を作っている。</p>	<p>皆が、参加できるような企画を考えている。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の事情に合わせた勤務時間の配慮をして、働きやすい職場作りをしている。研修会等で、学んだ事を職場で活かせるような体制になっている。</p>	<p>個々の職員が、自ら学んだ事で、社会資源となり、活躍していく事を応援する。回想法インストラクタ-として、市の代表として発表したり、回想法研修の会場へ実践的話をしに出張する。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時等の面談にたっぷりと時間を取って不安の解消に努めている。</p>	<p>面談時は、施設長、ケアマネジャ-管理者が同席してお話を伺っている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家庭の要望を十分に聞き受けとめる。</p>	<p>”</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭の要望を受け止め、私達のやっているサ - ビス内容について説明をしている。家族が良く考えてサ - ビスを利用できるように支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐに入居するのではなく、何度も足を運んでもらいながら、徐々に慣れて頂けるようにしている。		隣接しているデイホ - ムの利用を進めたり、行事がある時にお誘いし、場の雰囲気に馴染んで頂くようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝のラジオ体操、掃除、調理洗濯たたみなど、入居者様と一緒にいながら、生活の知恵なども学んでいる。回想法の継続により、更に心情が理解できるような関係作りができてきた。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を密にしながら、変化に対して、対応している。受診時家族に行ってもらったり、同行したり、安心感のもてる共同作業をしている。毎日の手紙の中でも、生活の様子を伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面接時に、ご家族の希望を伺ったり、ご様子をお伝えして、不安なく生活して頂けるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時に自宅へお連れしたり、住んでいた近隣の友人がホ - ムに訪問してくれている。お墓参りにお連れしたり、お祭りの時には、利用者様宅に呼んで頂き、毎年思い出作りをしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	体の丈夫な方が、車椅子の方の手助けを自然に行っている。声掛けや、食事の介助など、お互いを思いやる、あたたかい関係作りができています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院時に入居者様と面会に行ったり、他の施設に移られた方の所にも、落ち着かれる迄訪問をしている。亡くなっても葬儀等に参加している。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族や入居者様から、今迄の暮らしぶりを伺い、これからどのように、暮らしたいのかを話しあっている。</p>		<p>ケ-ス会議時に本人や家族を交え話しあっている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>担当者会議を開き、これまでの生活を把握し本人の希望に沿った支援を行うようにしている。入居後には、回想法を通して本人の生活ぶりを伺っている。</p>		<p>入居の際、居室に馴染みの家具を持ってきて頂いたり、回想法の継続により、これまでの生活を振り返り、共有できるような取り組みをしている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>朝のバイタルチェックをはじめ、食事摂取状況、一緒に活動する事により、体調の変化に気をつけて介護をしている。出来ること、出来ない事の把握をし、出来ない事への援助をしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケア カンファレンスを開いて、本人、家族を交えて、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を立てている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化が見られた時は、すみやかにケア カンファレンスを開き、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の過ごし方の様子や本人の言葉を大切に記載して、生活記録に残している。スタッフ間で情報を共有し、介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別ケアを重視している。自宅にお連れしたり、気分転換を図る為に外出の支援も多くしている。		デイホームと一緒にのレクや民謡、バス旅行など
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な防災訓練の実施や、地域のSOSネットワークとの連携、ボランティアの受け入れをしています。地域の行事に積極的に参加しています。幼稚園、学校の運動会に参加。又訪問して頂いている市の支援センター。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居時や入居後にもケアマネと連携をとりながら、社協主催の一日デイなどに参加させてもらったり、当社で呼んでいるPTの先生の指導も週一回無料でうけてもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に連携を取りながら、総合的、長期的なケアマネジメントをしている。		今後も連絡を密にしながら支援体制を整えていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり、電話でも相談が出来るシステムがある。提携病院があり、適正な医療が受けられている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師が、月に2回往診して下さり、必要時に検査や治療を受けられるようになっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職との交流があり、気軽に相談が出来るようになっている。小さな変化でも看護師対応で看てもらえる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、治療の状況や体調について、病院関係者と情報交換をしたり、医療相談室との連携もある。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議などで「看取り」について繰り返し話し合いをしている。個々の終末期のあり方について、家族と方向性を話しあっている。		重度化した時や、終末期にどんなケアを望んでいるのかなど、繰り返し話し合い、方針を深めていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族の意向を伺いながら、かかりつけ医とともに、支援を行っている。医療の度合いが高くなった場合には、医療機関と家族を交え、十分な話し合いをしながら、方向性を決めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人、ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。生活に慣れるまで訪問を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に沿って、礼節と尊厳の心を持って入居者様に接している排泄等に関しても、それとなく、個室へ誘導し対応したり、傷つけないよう心がけている。個人情報を大切に扱っている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	物事を始める前に、分かり易い説明を心かけて、ゆっくりと話しかけをしている。目的の場所へ案内する時には「こちらです」などと、手で示したりしながら、誘導している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の望む暮らしはなにか?と日々考えながら支援を行っている。その日の天候や入居者様の希望に合わせて支援している為、日課は流動的である。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	それぞれの、かかりつけの理容、美容室にお連れしている。たのめばすぐ、訪問してくれる美容師さんもいる。アドバイスしながら洋服選びをやっている。時に季節にあわない時には、さりげなく室で着替えたりする。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや、盛り付け、配膳、食器拭きなど、利用者や職員が、楽しく会話をしながら、行っている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望みに合わせて、楽しめるように支援している。いつでもコ・ヒ - の好きな人、ココアの好きな方、ミルクの好きな方、それぞれ用意してあり、毎日楽しんでもらっている。	夕食後に居室で晩酌を楽しまれる方もいます。入床前のホットミルクや買い物の帰りに、コーヒ - タイムを楽しむ方もあります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを書類上でつかみ、スタッフで協議し、トイレ誘導している。時間を合わせて、排泄を、尿、便毎に日々記録し、水分量の検討をしたり、下剤の調節をして気分よく過ごしてもらえるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に沿った時間で入浴に向けて着替えを選び一緒に風呂場へ向かうなど工夫し、入浴して頂いている。		入浴時不安になってしまう方には、優しい声掛けの工夫や、童謡を歌いながらのアプロ-チもしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	布団干しをしたり、掛け物の工夫し常に清潔を心がけ、室温も見ながら、睡眠導入している。前夜の睡眠不足の人などは、昼寝の誘導を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除やゴミ出し、新聞取り、畑仕事、買物、配膳、繕い物など出来る事を活かしながら活動してもらっている。外出好きの方には、買物同行で、気分転換を図ってもらう。自立歩行に難ある方には、つきそって外出散歩をしている。		スタッフと一緒に気分転換を兼ねて、近くのゴミステ-ションに自主的にゴミ出しに行かれる方もいます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時や、受診時に入居者にお金の支払いをお願いしたりする事もある。外出先での買物時、自分のお財布から支払いをして頂いています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩が日課となっている。2~3人ずつのグループで行っている。畑で野菜の収穫や、食材の買物に出かけたり、ショッピングセンター-で、コ-ヒ-タイムを楽しまれる方もいます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族やボランティアの方にも参加して頂き、バス旅行やホテルでのバイキングにも出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話の取次ぎをしたり、本人が書かれた手紙を、一緒に、散歩しながら投函している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は、いつでも自由に入れるようになっており、ホ-ルや居室で、ゆったりと過ごせるようになっている。入居時に、いつでも気軽に訪問して下さるように、お伝えしてある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県主催の権利擁護、身体拘束廃止の研修を受け、スタッフ全体に内容を伝達している。研修会でも繰り返し学んでいる。言葉の暴力もあるという教育もしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも玄関の鍵は開いていて、自由に入出入りができるようになっている。入居者様の行動を妨げないようケアをスタッフ全員で行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一緒に作業を行いながら、ご様子の把握をしたり、常に入居者様がどこに居るのか気を配り、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご自分で、爪切りのできる方への、はさみの貸し出しをしている。針仕事などは、スタッフの目の届く所でしてもらっている。洗剤や漂白剤などは、手の届かない所に鍵のかかる所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険について把握し、確認を怠らない。転倒や徘徊のある方は、常に目を離さず、見守っている。		防災訓練・救急救命講習を定期的に行っている。防災管理者研修に、多数受講している中全員受講する事をめざしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の訓練を年に1度消防署から来てもらい、受けている。自主訓練半年に一度。初期対応の手順を貼り出し、いつでも見られるようになっている。人工呼吸用の道具は受講済み。職員は全員キ-ホルダ-とともに持ち歩いている。ホームにも、壁にぶら下げている。		年に一度の訓練の他に、社内研修の中でも、定期的を実施してゆく予定となっている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	常日頃避難方法を、確認しあっている。 (1Fの人は外へ、2Fはベランダへと消防署に話してある。)		運営推進会議などの時に、火災時などの応援を呼びかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や、電話、お手伝い等で、家族に説明し、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常日頃より、体調の変化に気を配っており、異変時には、かかりつけ医に、すぐに電話で相談、受診している。同時に家族への連絡を行っている。結果報告もしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬管理ファイルがあって、いつでも確認できるようになっている。飲ませた人の責任も明確化している。薬の処方が変わった時は、全員が把握できるようになっている。		連絡ノ-トを活用し、伝達している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	内服薬のみに頼らず、食物繊維の多い食品を取り入れている。腸内細菌を増やす食べ物を必ずメニュー-に取り込むようにしている。(リンゴ・きなこ・納豆・ヨーグルト・ハチミツ・オリゴ糖など) 毎日の散歩やラジオ体操を行っている		バナナジュ-ス、ごまきな粉牛乳なども飲んで頂いている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後の口腔ケアは誘導しながら全員の方にして頂くようにしているが、朝と昼は、出来る方のみになってしまっている。		1日3回 全員がきちんと出来るように体制作りをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況により、食事の形態の工夫をしている。(お粥食・キザミ食)一日の食事量、水分量の把握をしており、水分などが、少ない時は、ゼリ・や寒天などで、水分を取ってもらっている。		アイスボックス(小さく砕いた氷)も、取り入れている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後のうがい、手洗いの励行をしている。感染症のマニュアルを作り、対応の取り決めがある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮な物を直売所や地元の店で、購入している。まな板や布巾は毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、草花を植えて、季節間を出している。玄関には手すりを付けて安全に移動できるようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は、明るく開放的で、窓一面に空や緑の木々が広がっている。光線については、カーテンにて調整をしている。浴室やトイレも家庭的な作りとなっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にソファ・やベンチを置いてあり、気の合った利用者様同士で、思い思いに、過ごせるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具やアルバム、趣味の物などを本人や家族と相談しながら持参してもらっているが私達の希望したものよりは少ない。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けて外気を入れたり、温度計、湿度計も見ながら、こまめに室温の調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差が少なく、広々とした、スペースが取っており、車椅子やシルバー・カ・利用の方も無理なく移動できるようになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所は、利用者様の目の位置に、分かりやすく「便所」と表示したり、居室の入り口には、手作りの表札を下げている。分かり易くしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関アプローチには草花を植え、季節ごとに利用者様と植え替えをしている。庭には家庭菜園があり、ベランダで、お茶やランチを楽しんだりしている。		ベランダに雰囲気の良い喫茶スペースを作りたいと計画中です。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別ケアを重視している。気分転換の為の個別の外出も支援している。園芸療法を生活の中に取り入れており、ボランティアの方のお手伝いを頂きながら、心身の健康の向上に努めている。回想法の継続により、今迄の暮らしを思い出して頂いたり、その中から信頼関係を深めて、日々の介護に活かしている。